

- 日 時 平成26年2月27日(木) 11:00~11:40
- 場 所 中央合同庁舎4号館4階共用第2特別会議室
- 出席者 山本大臣、久間議員、原山議員、青木議員、内山田議員、中西議員、橋本議員、平野議員、大西議員
事務局 倉持統括官、山岸審議官、中川総括参事官、河内参事官、川崎企画官、弦本課長

議題1. 革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)の実施について【公開】

議題2. 平成24年度の最先端研究開発支援プログラム(FIRST)のフォローアップ結果について【公開】

議題3. 革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)の検討状況について【非公開】

○議事概要

○久間議員 ただいまから、第1回革新的研究開発推進会議を開催させていただきます。本日は山本大臣がご出席、後藤田副大臣と亀岡政務官がご欠席です。議論に入る前に、山本大臣から一言ご挨拶をお願いします。

○山本大臣 総合科学技術会議の担当大臣として、今日皆様の前でご挨拶ができることを大変うれしく思います。

ImPACTにつきましては、ご存じのとおり、予算、それから法律も整いまして、先般の総合科学技術会議の決定を受けて、本日、第1回目の革新的研究開発推進会議を開催することになりました。

今日からImPACTが実質的に運用開始になるということで、これまで大変ご尽力を頂いた総合科学技術会議民間議員の皆様、それから内閣府の事務局の皆さん、関係者の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。

まさに、この会議がImPACTを設計し、そして中身も育て、さらに運用もやっていくということで、ここがImPACTの執行機関だということだと思います。ぜひ有識者の皆様の見識を発揮して頂いて、実質的な執行機関として、しっかりとImPACTを推進できるようにご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

ImPACTについては、いろいろ思い入れがあるわけですが、CSTPの司令塔機能強化の3本柱ということで創設をされたら、先ほどご説明のあったSIPとCSTPが3本柱の2つを形成するということですが、後ほど青木先生からもきつとご意見を頂くことになるのですが、5年間、総合科学技術会議でお世話になりまして、この司令塔機能強化について5年間やってこられた青木先生がどんな点をつけられるのかということがちょっと気になりますが、とにかく皆さんと協力して司令塔機能強化をやってきたら、ImPACTは、そのための大事な柱だということだと思います。

ここまで来るまでは、いろいろ皆様にもご苦労をかけましたが、まず、ハイリスク、ハイインパクトというコンセプトをなかなか理解して頂くのに時間がかかったということで、最初から出口が決まっていなかったことを理解して頂くために大変苦労いたしました。

その点について言うと、この予算の獲得も、各部局に本当にお世話になったのですが、率直に言いますが、安倍総理にも直訴し、麻生財務大臣にも直接お願ひし、(財務省)主計局とも直接交渉してImPACTの中身についての理解を求めて、最後は財務省の方もしっかりと理解して頂いて550億という基金をつけて頂いたということだと思います。

PM(プログラム・マネージャー)の方式を導入するという点についても、いろいろ研究コミュニティの方からもご意見もありましたし、その調整もいろいろありました。

もう一つ言えば、菅官房長官がトップを務める健康・医療戦略室、ここは必ず成功して頂かなければいけないと思います。総合科学技術会議が全体を俯瞰して、ライフサイエンスの分野については、健康・医療戦略室が総合調整をやるという、そういう構図ですけれども、ImPACTについても、健康・医療戦略室とのいろいろな調整がなかなか大変でした。これからしっかりと連携をとりながらやっていけるとお思います。

1つ私が改めて申し上げたいのは、今回このImPACTを創設するに当たって、JST、科学技術振興機構、ここをある意味でいうと手足として使わせて頂くということになりまして、法改正では、下村文科大臣にもご答弁を頂くなど大変お世話になりました。ImPACTは、これから文科省も含めた関係各省とももちろん連携し、協力をしながらやっていくわけですが、ImPACTは、言うまでもないことですが、これはJSTのプロジェクトでもありませんし、文部科学省のプロジェクトでもありません。ImPACTは、総合科学技術会議でつくってきたら、総合科学技術会議がしっかりと司令塔機能を発揮して、目利きし、運営をしていくと、こういうことだということをお改め申し上げておきたいと思ひます。

このImPACTのプログラムを通じて、リスクを恐れずに果敢に物事に挑戦して頂くと、そういう文化をぜひ社会風土というのでしょうか、これを醸成していければと考えております。

仕組みの根幹ですが、これも制度設計にかかわってきた皆さんの前で改めて言うのも何なんですが、プロデューサーにお金をつけると、もちろんプレイングマネージャーができる研究者の方はおられると思ひますが、プロデューサーにお金をつけて、この人がキャスティングをやり、そして、この研究開発のデザイン力、マネジメント力、こういうものを結集していくということで、安倍総理がずっとおっしゃっている高い研究開発のレベルをいかに国民が享受できるようなサイクルをつくるか、すなわち高い研究開発のレベルをいかに産業化していけるか、特にImPAC

Tは社会を大きく変えるような革新的研究開発を目指していくということですから、このプログラムマネージャーに、まさに死の谷を越えダーウィンの海を泳ぎ切っていく、そういうサイクルをつくって頂くということだと考えております。

究極の目的は、ここにも書いてありますが、イノベーションに最も適した国、起業・創業の精神に満ち溢れた国を実現するということだと思います。

まずはIMPACTの理念とか思想というものをできるだけ多くの方々にご理解を頂いて、リスクを恐れずとにかく挑戦するという方々の力をここに結集していきたいと思っております。

ぜひPMの希望者の方たくさん出てくるといいなと思っておりますので、有識者議員の皆様におかれましては、IMPACTの意義を積極的にPRして頂きますよう心からお願い申し上げます。

ちょっと長くなってしまいましたが、ここに至るまでいろいろと苦労がありましたので、つつい思い入れもありますが、本当に改めてIMPACT創設に関してお力を頂いた有識者議員の皆様にご心から感謝を申し上げ、事務局も一丸となって、私も担当大臣としてリーダーシップをとって、この仕組みをサポートしていくということもお誓い申し上げます、一言ご挨拶にかえたいと思っております。有難うございました。

○久間議員 どうも有難うございました。IMPACTは昨年来、山本大臣の強いリーダーシップのもとで、有識者議員の先生方と、多くの時間を割いて議論してまいりました。事務局の皆様もよく頑張ってくれたと思っております。本日、第1回の会議を迎えることができたのは、山本大臣、有識者議員の皆様、それから事務局の皆様のご尽力の賜物です。心から感謝申し上げます。

本日は、3つ議題があります。議題1と2が公開で議題3が非公開となります。議題1では、IMPACTに関する所要の規定を決定して頂くとともに、有識者議員の先生方から一言ずつコメントを頂きたいと思っております。決意声明も含めてよろしく申し上げます。議題2は、平成24年度のFIRSTのフォローアップ結果について報告させていただきます。最後に、IMPACTの詳細部分については、非公開で審議させていただきます。それでは、議題1に関して事務局から簡潔にご説明申し上げます。

○河内参事官 それでは事務局からご説明をさせていただきます。資料1は、運用基本方針の取扱要領でございます。先般2月14日の本会議でIMPACTの運用基本方針を決定頂きましたので、その運用基本方針を受けた取扱要領でございます。これを今日決定頂きたいということが1つ。それから、資料2は、「革新的研究開発推進プログラム有識者会議」の開催等についてでございます。これは今日の第1回の革新的研究開発推進会議のもとに設置をされます有識者の会議ということでございまして、これも今日決定頂きたいということでございます。

まず、資料1でございますけれども、内容につきましては、これまで先生方のご議論を積み重ねてきて頂いたものをまとめさせて頂いております。先週までのご議論に加えまして、そのときに頂いたご意見を盛り込んだ形のものとして、今日ご提示をさせて頂いております。資料1の中で、特にご説明をさせて頂きたいのは、1ページの下の方エフォートの関係でございます。基本的には、PM業務専任ということでございますけれども、特例を認める場合については、どう考えるかということでございます。

お手元、机上配布の資料でPMのエフォートについてというものを別途配布をさせて頂いております。PMの形態、専任が基本的でございますが、兼任の場合はどういうケースかということを図示しております。文章上は資料1の文章にさせて頂きたいと思っておりますけれども、この机上配布のPMのエフォートについて公募要領にこれを盛り込んで、よりわかりやすく説明をするといった形にさせて頂いてはどうかということが1つでございます。

それから、おめくり頂いて、3ページに飛んで頂きますと、前回ご議論があった推進会議における審議・検討、②のところでございますけれども、PMの採用案を取りまとめる過程の中で、PMの採用の決定がなかなか判断に至る十分な根拠がない場合どうするかというご議論がありました。3ページの②のところでございますけれども、後段の括弧書きのところ、追加審査を経た上で採用判断を行うことができるというふうな規定を盛り込んでおります。

それから、あとは知財のところでございます。知財につきましては、これから発生していきます知財について、基本的には機構、JST側に出てきたものを本推進会議において適宜判断をしていくというふうな規定を入れております。

それから、後段、このIMPACTを運営するに当たりまして、知財の問題とともに利益相反のところをどういうふうに考えているかということでございまして、11ページのところでございまして、利益相反の取扱いについて規定をしているというふうな構成になっている。ここは基本的には変わっておりません。

資料2につきましては、この推進会議のもとに置かれる有識者会議の開催等についての設置のペーパーでございまして、資料2の2のところでございますが、有識者の先生方に加えまして、必要に応じて外部有識者を加えることができるというふうな規定を盛り込んでございまして、ここの人選等については、また別途ご相談をさせて頂きたいというふうに思っております。説明は以上でございます。

○久間議員 どうも有難うございました。前回議論して頂いた内容を反映させたもので、特段問題ないと思っておりますが、ご意見がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、この運用基本方針の取扱要領案を決定します。

本日は革新的研究開発推進会議の第1回です。PMが非常に大切ですが、我々有識者議員も同じように重い役割と責任を持って成功させなくてはなりません。

従いまして、有識者議員の皆様からIMPACTを実施するに当たって、期待やあるべき姿など、色々なご意見を一

言ずつ頂きたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、平野先生から順にお願ひします。

○平野議員 山本大臣からも御発言がありました。ImPACTは、ハイリスク・ハイインパクトな研究開発の推進をコンセプトとしており、リスクを恐れない風土を醸成することにもつながるもので、非常にすばらしいプログラムだと思います。

さらに言えば、私は、研究開発そのものではなく、それをマネージングするPMに予算を配分するという、日本でも恐らく初めての試みとなるこの仕組みに期待しています。ハイリスク・ハイインパクトな研究開発、つまりは、必ずしも確度は高くないが成功すれば社会に変革をもたらす非連続的なイノベーションを生み出す研究開発の成功のためには、やはり革新的な基礎研究の成果が不可欠ですが、その上で、出口、また、それに到達するまでの過程の全体を見渡して、いかに基礎研究の成果を出口へ結びつけるかというマネージングが重要となりますので、その意味で、PMに予算を配分するという事は、ImPACT最大の革新的な仕組みだと考えています。逆に言えば、PMの人選がImPACTの生命線であるとも考えていますので、私も、微力ながら引き続き力を尽くしていきたいと考えています。

○久間議員 橋本先生、お願ひします。

○橋本議員 このプログラムは、本当に山本大臣の強いリーダーシップのもと、でき上がったわけですし、研究者コミュニティにいる人間として、大変ありがたいと思います。それと同時に、一有識者議員としては、これからの責任を強く感じるわけです。やはりPMの選定が極めて大きな課題です。その後も、私たち総合科学技術会議の責任は極めて大きいものだというふうに認識しております。

そのときに、ぜひともご提案といいますか、お願ひしたいことがあります。私も一生懸命やりますし、有識者議員、ほかの先生方も一生懸命やってくさるので、それは間違いないと思うんですけども、私たちのわかっていること、カバーできる分野というのは、やはり限られています。

ですので、やはりここには外の専門的な、そういう知識を持った方の協力を頂くというのが極めて重要だと思います。これは民間とアカデミア、あるいはそれ以外のところも含めてです。これから推進会議の構成等々も議論になると思うんですけども、私たちの責任を放棄するわけではなく、また軽減しようとは全く思っておりません。しかし、責任をしっかりと果たすためには、やはり外の力をお借りすることが極めて重要だというふうに思いますので、ぜひともその辺、今後の議論をお願ひいたします。

○久間議員 どうも有難うございます。それでは、中西先生お願ひします。

○中西議員 今回、リスクは取り組む課題の大きさと一対になっている話だと思います。大きな課題にどれだけ取り組むかというのは、PMの力もさることながら、コーディネートする全体像を、この委員会がまさに共有して進めていくというやり方が必要じゃないかなと思うんです。このバックグラウンドであるいろいろなイノベーションに対するインパクトをさらに広げたいということの中で、これまで繰り返し議論されてきました人材の流動性の話も、カバーする範囲の拡大にとって非常に重要でございます。そういう意味で、我々が取り組むべき話は、単に予算を使うという話では全然ないということで、ぜひ進めていきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

○久間議員 有難うございます。内山田先生お願ひします。

○内山田議員 これは、発端は全体としては、かなり効果が出ていたFIRSTの仕組みを何としても何らかの格好で継続すべきだということから始まったんですけども、その中に意思を持って全体のプログラムをつくり上げるということで、単に公募型のFIRSTのあれではなくて、意思を持ってプロジェクトを構成していくということで、今議論頂いたPMみたいな制度を入れました。

これは今まで日本にはなかったやり方なんで、これは最初がもちろん大事だと思いますけれども、しばらく続けて、こういうことができる人材が日本に育っていくということが、SIPのPDも含めてなんですけれども、こういうことをやれる人がどんどん日本に行くということが科学技術イノベーションをやりやすくする。あるいは産学連携やりやすくする一つの肝だと思っておりますので、しっかり皆さんと力を合わせて、特に第1期は育てていきたいというふうに思います。

○久間議員 有難うございます。青木先生お願ひします。

○青木議員 どうも有難うございます。本日、私、総合科学技術会議を5年間やらせて頂いた最後ですが、ちょうどそれがImPACTの第1回の推進会議であるというのは感無量です。いつもわかっていることは余り言わないですが、やはりあえて言う必要があると思います。つまり、本当に私未熟でしたが、何らかで日本の科学技術政策に関与できたらしいなど、特にImPACTに関与できたということは誇りに思っております。

改めて大臣、それからほかの有識者の方々や統括官とほかの事務局の方々に深くお礼を申し上げたいと思います。

先ほど採点するというお話がありましたけれども、採点はしなくても、私、制度設計を研究にしていますが、将来を見据えて世の中が変わっていくときに制度設計をしていくというものの先端にいるのが科学技術政策だと思います。

その点で、ImPACTもそうですし、SIPというのをまず打ち出して、これからどんどん新しいイノベーションシステムを構築していくことになるとは思いますが、それをぜひ外から見守るとエールを送ると勉強していきたいと思っております。どうも有難うございました。

○久間議員 有難うございました。原山先生お願ひします。

○原山議員 今の青木さんの話に続けて、厳しい目で指摘をして頂きたいと思います。

このプログラムそのもののデザインの仕方、作り込みの仕方、それから実装の仕方そのものがイノベティブであったと思いますし、今後もこのスタンスを貫いていきたいと思います。

ということで、いろんな問題山積、これからも先ほど山本大臣が言ったように、ここに来るまでも大変だったんです。これからも大変だと思っています。その重みというものを認識した上でなんですけれども、やはりここまで制度が詰まってくると、ちょっと一息抜きたくなるんですが、よく言われるのが、細部に悪魔が宿ると言われます。

ですので、最後の最後まで詰めはしっかりしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○久間議員 有難うございます。最後に大西先生お願いします。

○大西議員 有難うございます。皆さんおっしゃって頂いたとおりですが、今、防災の国連の会議でデニス・ウェンガーという防災関係のアメリカのファンディングの取りまとめをやっている研究者と付き合っているんですが、アメリカにはそういうタイプの、つまりある道の研究動向について精通していて、どういう研究やったら次のステップが開けるかということ精通しているプロがたくさんいるということを実感しました。今回のPDとかPFは、そういう人たちをつくってこうというのも一つのねらいがあると思って非常に期待しています。

それから、もう一つ学術会議では、ちょうど時期を同じくして大型研究計画というのをまとめました。200幾つの大型研究計画と、さらにたしか27だと思えますけれども、重点大型研究計画というのをちょうどまとめたところで、あらゆる分野の社会科学から工学、理学に至るまで、全ての分野について出して頂いて精査をしてまとめたところです。

恐らくこの中から、非常にハイリスク、ハイインパクトなものがImPACTに応募するということになるでしょうし、それから、SIPにいくのも出てくると思います。ちょうど我々もそういう準備をして、これから具体的なプロジェクトを取り上げていくという段階にあったということで、我々としても一定の役割が果たせるのかなというふうに思っています。有難うございます。

○久間議員 有難うございました。山本大臣や先生方がおっしゃったように、ImPACTは、プロデューサーにスポットライトを当てて、ハイリスク、ハイインパクトなプロジェクトを推進する我が国にとっては初めてのプログラムです。

大臣からも、内閣府が政策をつくるだけでなく、執行するという強いご意思の発言もありました。

ImPACTを成功させることで、単に内閣府のプログラムだけでなく、産官学で同じようなチャレンジャブルなプログラムが起きてくると思います。日本をイノベティブな国にしていくことが重要だと思うんですね。

どういうPMを選ぶか、どういう課題を選ぶか、我々がバニングボードはどうマネージしていくか、それから、橋本先生がおっしゃったように、いかに有能な外部有識者を探してくるか、もちろんのことながらJSTの強い支援体制、こういった全てが揃って成功すると思います。

我々の責任は重いので、先生方、ぜひともよろしくお願い致します。山本大臣、引き続き強いリーダーシップをお願いします。

それでは、本案で「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針取扱要領」と、『「革新的研究開発推進プログラム有識者会議」の開催等について』を決定させていただきます。

続きまして、2番目の議題に移ります。

議題2は、先週推進会合で決定頂きました、平成24年度のFIRSTのフォローアップ結果について、今週末に開催されますFIRST EXPOの案内もあわせて事務局からポイントを説明してください。

○河内参事官 それでは、資料3、別つづりで厚めの資料でございます。

平成24年度のFIRSTのフォローアップ結果でございます。

先週ご説明しましたように、毎年度フォローアップを行っておりまして、昨年度はフォローアップの一環として中間評価という形でやっております。今年度は通常のフォローアップということですが、最終年度でございますので、これまでの成果を取りまとめることに主眼を置いて中を詰めてきたということでございます。

おめくり頂いて、目次のところでございますが、実施方針、実施方法等、フォローアップの結果の概要ということになっておりまして、別紙1、2は、各研究課題ごとのフォローアップ結果が、各有識者の先生方のコメントを載せる形でまとめております。

別紙2のほうは、FIRSTの各研究課題の概要と実用化等への道筋ということでございまして、わかりやすく各研究課題ごとの1枚紙と、今後こういった形で実用化等に向かっていくかということカラーの絵でまとめさせて頂いております。

今、各研究課題、あるいは先生方と最終的な文言、事実関係の確認をしております、今日ご決定頂いて、その事務的な作業が終わり次第公表という形にさせて頂きたいと思っております。説明は以上でございます。

○久間議員 どうも有難うございました。このフォローアップ結果につきましては、後日ホームページ等公開させて頂きます。議題2は以上でございます。

○河内参事官 説明、すみません忘れまして。もう一つ、あしたと明後日でございますけれども、FIRST EXPO 2014が開催されます。お手元の資料、参考資料で2枚紙がお配りしているかと思います。

本年度は、FIRST最終年度ですので、その成果を外に発信することを主目的としまして、FIRST EXPO

2014というふうに銘打ちまして、30人の先生方に集まって頂きまして開催をするということでございます。

明日28日と明後日1日かけて、ベルサール新宿グランドで開催をさせて頂きたいと思っております。

プログラムの内容につきましては、めくって頂いたところにそれぞれ記載のとおりでございますけれども、プログラムの中で、冒頭、国会のお許しがいただければ大臣にご出席を頂きまして、オープニングセレモニー等でご挨拶を頂ければというふうに思っております。

それから、プログラムの中には、メインは各中心研究者の成果発表という形になっておりますけれども、シンポジウム形式で開催をして頂く部分もございまして、モデレータの方、何人かお願いしております、朝日新聞の辻先生、あるいは今度有識者の先生になって頂く小谷先生をお願いしているということと、それからNEXTの研究課題もこの中で発表をして頂くようなことを考えておりまして、それについてもぜひともごらん頂ければというふうに思っております。

それから、一般市民の目線でということで、タレントの方とNHKのサイエンスZEROで司会進行されています女優の方をお招きして、これはオールナイトニッポンの公開の収録という形で開催をさせて頂くというふうな段取りになっております。説明は以上でございます。

○久間議員 有難うございます。FIRSTはプレゼンテーションとポスター、パネルディスカッション、NEXTはポスター展示とパネルディスカッションで開催させて頂きます。よろしく申し上げます。

先ほどから話が出ていますように、3月5日をもちまして、青木先生が5年間の任期を終了され退任されることとなりました。まず、大臣から青木先生へ一言申し上げます。

○山本大臣 青木先生におかれましては、平成21年3月（に就任された）ということですが、それ以来5年にわたって、総合科学技術会議の議論にご参加を頂きご貢献頂きました。心より感謝を申し上げます。

ご就任の期間中に、東日本大震災、本当に未曾有の危機があつて、特に科学技術イノベーションに求められる役割が非常に大きくなっているという中で、第4期だと思っておりますが、科学技術基本計画の取りまとめにも大変ご尽力を頂きました。

さらにアクションプランについても、今年、随分進化をさせたと考えておりますが、政府全体でのメリハリのついた科学技術予算の編成にも青木委員に大変ご貢献を頂いたと思っております。

特に総合戦略の策定後に、経済成長、科学技術イノベーション政策を主題として、一橋大学の大学フォーラム、こちらにも青木議員に主催して頂きまして、ある意味で言うと、安倍内閣の成長戦略を広くアピール頂いたと考えております。

先ほどもお話がございましたが、今後も大学とか公的な研究機関の方で大変ご活躍をされると思っておりますが、ぜひ外からしっかりとご評価を頂いて、いろいろアドバイスも頂きたいと思っておりますし、これからは科学技術イノベーション政策の中核的存在としてぜひご活躍を頂きたいと思っております。

先ほど先生に得点と言ったのは、おととの12月に安倍総理に、科学技術担当大臣に任命されたときに言われたことが、総合科学技術会議がなかなか活動が鈍っていると、総合科学技術会議にもう一回光を当てて輝かせてほしいというお話をいただきました。それを踏まえて、この1年ちょっとやってきたんですけれども、回数だけは10回か11回ぐらいやったので、回数は圧倒的に前政権と比べて上回ったと思っておりますが、特に5年間やっておられた青木先生が、この間、少なくとも1年間、少しは総合科学技術会議が活性化したとか議論も活発だったとか、少なくとも55点ぐらいは頂けたらうれしいなと思って、そういうことを前からずっとお聞きしたかったんですが、これから議員はおやめになっても、たまにはちょっと顔も出して頂きたいですし、そのうち落ち着いたらご飯にもお誘いしようと思っておりますので、そのときにもお聞きできればと思うんですが、もう一度言いますけれども、先生、本当に有難うございました。これからはぜひいろいろサポート頂ければと思っております。

○久間議員 どうも有難うございました。それでは、青木先生から、二言でも、三言でも、我々に対するエンカレッジのメッセージを厳しいメッセージも含めてよろしく申し上げます。

○青木議員 どうも有難うございます。先ほど例によって未熟ですのでタイミングを間違えてかなり言うべきことを言わせていただきましたが、改めて大臣、議員の方と統括官、事務局の方にお礼申し上げます。

大臣からご指摘がありましたとおり、私、5年前、麻生総理から辞令を頂きまして、それから震災とか政権の交代とかありまして、総合科学技術会議が変わってきたのを見てまいりました。それでご飯に誘ってくださるから言うわけではないですけれども、本当に100点満点です。将来を見つめて必要性をつくづく感じます、私は、世代間の研究とかFuture Designとかやっていますけれども、30年先、50年間の日本と今を結ぶものは何ですかということ、年金があり、それと科学技術イノベーションというものがあります。環境が変わるに従って、まず、少子高齢先進国の日本から変わらなければいけないんですけれども、CSTPが率先してシステムを変えていくというのは重要で、将来を担っていく人々にとっても非常に大事なメッセージとして送っていかねばならないと思っております。コミュニケーションの部分では、国民みんながやるべきですが、今後も微力ながら協力させて頂きたいと思っております。本当どうも有難うございました。

○久間議員 今後ともよろしく申し上げます。どうも有難うございました。それでは、ここから非公開で進めさせて頂きますので、記者の方ご退出申し上げます。（プレス退出）